

認知症・物忘れについて

脳神経外科
田村クリニック
南大沢メディカルプラザ

いなじ ただよし
稲次 忠介

日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会認定専門医



長寿国家日本における認知症の方の存在は、現在約150万人で、2015年には250万人以上に増加するとされています。しかし、十分に対応出来る環境と施設が整っていないのが現状です。また、正確に診断できる先生方も多くありません。認知症とは、何でしょうか？

(一)人、時、場所がわからなくなる。
(オ)時々、作り話が見られる。
(カ)日常生活に支障を来たし、進行性である。
(キ)新しいことが学習出来ず、以前に学習したことが思い起こせない。
などが異なります。

(二)今まで普通に生活出来ていた人が、徐々にゆつくりと認知の低下を起している。

(ニ)の状態が、人と接することや社会生活に影響を及ぼしてしまふ。

(三)せん妄(次回詳しく説明します)などの意識障害がないこと一を言います。

それでは、〈認知の低下〉とは、具体的にどのようなものか記します。

- ・新しいことが覚えられない、以前のことか思い出せない。
- ・服の着方や道具の使い方がわからない。
- ・物の名前がわからない。
- ・品物が何だかわからない。
- ・物事の組み立てが出来ない。

- ・一などで、中核症状と言います。この中核症状があつて初めて認知症を疑います。

では、〈ふだんの物忘れ〉との違いは何でしょう。〈認知症の物忘れ〉は、

(ア)体験したこと全体を忘れる。

(イ)物忘れの自覚に乏しい。

(ウ)探し物を誰かが盗ったと言つ。

「最近、物忘れがひどくなつて」という方が外来に来られます。このような方で、物忘れが自覚できていたり、他人に指摘されて思い出せるのであれば、認知症の物忘れとは異なることもあります。

「認知症とアルツハイマー病は同じ」と言う間違つた考え方が、多くの人に広まっているのが現状です。認知症とは、症状の状態を説明しているだけで、原因となる病気は色々あります。中には、お薬や手術で良くなるものもあります。脳神経系の専門医でなければ、正しく判断出来ずに見逃してしまふ病気も多くあります。

「こんなことで相談するのは、恥ずかしい、先生に笑われる、怒られる、相手にされないかも」と思われている方、思いきつて相談してください。一緒に解決方法を考えていきましよう。